

校長室だより

共学共高

第
85
号

令和7年10月2日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

二学期の授業～その2

9月29日（月）の2時限目は、2年2組の「日本史探究」を参観した。授業者はI先生、同クラスの担任でもある。テーマは「中世4 武士の世界」具体的には鎌倉幕府を扱う。I先生もチャイムが鳴る前から教室に待機している。チャイムと共に始まり、あいさつを交わす。生徒たちは手元に授業プリントを用意し、先生は電子ボードにプリント内容や資料を提示しながら進めていく。最初に示されたのは、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の一場面の写真である。源頼朝が亡くなった後、これからは有力御家人らによる合議制を行うとしたときのシーンである。先生からは「なぜ合議制へと移行するのか」と投げかけられる。さらに、「例えば、自分の所属している部活動でリーダーであった先輩が引退した後になくなったかを例に考えてみよう」と補足される。生徒たちはペアで話し合う。生徒からは「先輩が引退して部長が変わったときに部活の雰囲気は変わったが、次の代がリーダーシップを発揮している」現状が出される。

鎌倉幕府では、頼朝というリーダーを失って、リーダーシップを発揮する人がいなくなったから、「十三人の合議制」へと移行したのだ。

その十三人の合議制には、北条時政がトップとして君臨しているようだ。時政の子である、政子（2代将軍頼家の母）と義時（政子の弟）も属している。頼家が2代将軍に就任した際には、比企一族はそれを喜んだ。なぜならば、3代将軍が自分たち一族から出る可能性があるからだ。先生は、家系図を提示して説明する。しかし、政子は頼家が将軍にはふさわしくないと考えていた。時政は、頼家を修善寺に幽閉し、比企能員を滅ぼしてしまう。さらに、源実朝を3代将軍に擁立し、自らは執権（政所担当）に就任するのだ。



その後、頼家の子である公暁（くぎょう）が実朝を暗殺して朝廷と幕府との関係が不安定になっていく。先生が「公暁が実朝を殺した理由は何か」と投げかける。生徒たちはペアで話し合い、「自分が将軍になりたいからではないか」と応じる。先生は、公暁が実朝を暗殺したのは、「公暁の父である頼家を殺したのが実朝の部下だとそそのかされたから」と説明する。大河ドラマでは、そそのかしたのは北条氏との設定になっていたが、史実は明らかになっていないとのことだ。1枚のスライドが映し出され、鶴岡八幡宮の大イチョウの陰に公暁が隠れ、実朝を暗殺しようとしている様子が示される。

その後、承久の乱の経過、結果、そして意義について確認して、執権政治へと進んでいく。人物を中心とした因果関係が明らかになっていくと、歴史を知る楽しさが増してくる。生徒たちはしっかりと対話をしているが、もっとワクワク感を表出してもいいのではないかと、私は思ってしまう。どちらかというと、高校生の時、歴史は不得手であった私だが、こういう授業であれば、毎回参加してみたいものだ。生徒は、私がいたら迷惑だと思うだろうが。

（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）